

「地域の人材」を活用したビデオ教材の制作

—食生活を身近な問題として捉えるために—

複雑化し食卓から遠い存在になってしまった食生活を身近な問題として捉えるために、「地域の人材」を活用したビデオ教材を制作し活用した。それによる学習効果と課題について述べる。

1. はじめに

我々を取り巻く食生活は年々複雑化し、身近な営みであるはずの食卓が遠い存在になってしまった。このような中で、中学生は、旬や郷土料理について学んでもなかなか理解できない。こうした生徒の実態を踏まえ、家庭分野では、地球規模の食糧問題や環境問題、食の安全など広い視点に立った食教育とともに、生徒の家庭や地域という、生活に身近な視点に立って指導していく必要がある。特に家庭や地域に関心をもたせる学習を行うことは、これまで見過ごしてきた食の問題を自分の課題として捉えることができると考えた。

しかしながら、大規模校での地域の人材活用は難題が多い。例えば、講師を招いて講演を行う場合、学年全体での講話では生徒の注意が散漫になり学習効果が薄れる危険がある。逆に各クラスで講話していただく場合、講師との日程調整に膨大な時間を割かれてしまうことが予想される。

そこで、食生活を身近な問題として捉えるために、「地域の人材」を活用したビデオ教材を制作し授業に生かした。

2. ビデオ教材の制作

(1) ビデオ教材制作の手順

①講師の選出

講師の選出は、学習の主眼を達成するためには重要な事柄である。山口県内の家庭科教諭にアンケート調査した結果、講師を選出する場合、「学校職員からの紹介」「行政からの紹介」が多いことがわかった※1。

本校の取り組みにおいても、学校栄養士からの紹介を受けて、講師を選出した。

②打ち合わせ

学習の目的を明確にするために、講師との綿密な打ち合わせは重要な鍵となる。講話の目的や主眼について十分に説明しておくとともに、講師にビデオ教材制作の了解やその活用方法等も説明しておく必要がある。

③取材

十分な打ち合わせの後、実際に講話を聴いたり現地に取材に行ったりした。講師招聘の場合、本校では、給食委員会の活動の一環として地域の方を講師に招聘した。講師は約40名程度の給食委員の前での講話となり、幾分リラックスした雰囲気の中で、生徒も集中して講話を聴くことができた。農場や牧場など現地に取材に行く場合、給食委員会の代表数名を教員が引率し取材した。生徒や教師が現地に赴いて映像に加わることは、生徒の関心を高めるとともに、よりリアルに食の実態を捉えることができた。

④編集

講話や現地取材は長時間になるため、その映像をそのまま放映することは難しい。そこで講師の意図を大事にしながら、生徒が理解しやすいように講話内容の順序を入れ替えたり、専門用語や重要なキーワードにはテロップをつけるなどの編集を行った。これにより1~2時間の映像を、学習の主眼に沿う10分程度のビデオ教材に編集した。

(2) ビデオ教材制作の留意点

①取材技術

学習効果の高いビデオを制作するためには、講話内容のあらすじを知っておくことや質問内容を伝えておく必要がある。これによって講師も教師も事前準備が可能となる。

②撮影技術

素人の撮影であることから、あまり技巧に走らず、講話であれば三脚を使った定点撮影を、現地取材であれば講師と生徒の活動を中心に撮影した。また、ビデオカメラの内蔵マイクだけでは周辺の雑音で不明瞭な音になることから、講話やインタビューの際には集音マイクを利用した。

③撮影機材

ビデオ編集を行うためには周辺機器のスペックを確認しておく必要がある。



図1 ビデオの1コマ

④編集技術

生徒の興味・関心を高めるために、生徒が好んで活用したが、最も重要な場面では不要なBGMやアニメーションを省き、シンプルな映像に編集して生徒の集中力を高めさせた。

3. ビデオ教材の授業での活用例

～食材に関わる人の思いを知ろう～

(1) 主眼

授業の主眼を、「日々食べている食材が、多くの人の手を通じて食卓に上がっていることを理解する」「食材やその食材に関わる人々に感謝の気持ちをもつことができる」とした。

(2) 学習活動

萩周辺の特産の食材や郷土料理を学んだ後、食に関わる人のビデオ教材を視聴し、学級で感想を発表し共有した(図1)。視聴の際には、重要だと思った箇所をメモを取らせた。

(3) 考察

授業後、多くの生徒が前向きな感想を述べており、地域の人材を活用したビデオの活用は生徒の興味・関心を高めた。

また、ビデオを編集することで、より効果的に学習内容を伝えることができた。さらに、ビデオ活用は時間的な制約を受けないため、大規模校でも地域の人材活用が可能であった。

4. ビデオ教材の効果と課題

(1) ビデオ教材の効果

このようにビデオ教材の制作は、既製のビデオとは異なり、見知った地域の方々、級友や先生が登場するため、より身近に食生活を感じることができた。また、指導者自身が編集をするため、学習の主眼をもっとも効果的に達成することができた。

(2) ビデオ教材の課題

ビデオ教材には多くの情報が含まれている。効果的に主眼に近づけるためには、情報を取捨選択することが重要である。また、ビデオ教材の活用も効果的に授業に取り入れていく必要がある※2。

5. おわりに

実際に指導者が取材して制作するビデオ教材は、指導者の意図が伝えやすい教材である。しかしながら、制作するに当たっては、情報モラルに抵触するような行為は避けたい※3。また、制作したビデオが手元を離れてしまうと、情報は一人歩きして多くの協力者に迷惑をかけることになる。是非注意して活用したいものである。

参考文献・参考Webページなど

※1：第48回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会第5提案分科会 萩・阿武支部資料 p.30,31

※2：「情報教育のすすめ-子ども・学習・コミュニケーション」「新・情報社会人のすすめ」(情報教養研究会編, ぎょうせい)を参考にした。

※3：テレビ局等の情報モラル規約を参考にした。